

海外研究発表会の参加報告

経済学部 米山ゼミ



2018年12月14日～17日、経済学部・米山ゼミの学生17名が、慶應義塾大学・佐藤ゼミ、横田ゼミの学生と共に台湾・元智大学を訪問し、研究成果の発表会と企業への提案発表会、交流イベントに参加しました。

元智大学（Yuan Ze University）は、台湾・桃園市にキャンパスを構える私立大学です。工学部、情報学部、管理学部などから成る総合大学で、1989年に創立されて以来、世界的にも学力が高いとされる台湾の中でトップレベルの研究・教育水準を誇っています。今回、元智大学・管理学部の黄敏萍（Minping Huang）教授をはじめとする5名の教授陣と2つのゼミからの学生30名が参加してくれました。

1日目は、キャンパスツアーの後に各グループワークを行ったのち、私たち日本の学生のためにウェルカムパーティーを開いてくれて、ダンスの披露や、仲を深められるようにと様々なゲームを用意してくれました。

2日目は、企業への提案発表会でした。本年度は、「(株)ハウス食品台湾」様の課題についての解決案を考えるために、事前に3大学混同でのグループを作り、オンラインディスカッションを用いて発表準備を進めていきました。発表後には企業様からコメントをいただけて、より実践的で貴重な体験をすることができました。

3日目は、研究成果発表会でした。全6グループの発表があり、研究成果発表会では各大学で2グループずつ、それぞれ研究してきたテーマについての発表を行い、学

習院大学からは「長寿企業」と「ダイバーシティ」の2つをテーマに発表を行いました。普段英語で授業を受けている元智大学の学生とは、英語コミュニケーション能力の差を痛感し、英語での発表や質疑応答には苦労しましたが、言いたい事をしっかりと伝え、何とかコミュニケーションを取ることができました。

最終日は、「O' right」というカンパニーツアーへ行き、フェアウェルランチパーティーを開いてくれたのちに、学習院生で台湾きっての観光名所・九份へ向かい、米山ゼミとしての最後の思い出を作ることができました。



現地出会った台湾の方々はみなさんが私たち日本の学生を温かく向か入れてくれました。訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を前に、「日本のおもてなしの精神」が盛んにいわれていますが、私たちは台湾の人々のホスピタリティに学ぶべきことが多くあると感じます。

今回の台湾・元智大学との学術交流を通して、研究に対する姿勢や台湾の文化、国際交流におけるホスピタリティの重要性を学びました。また、異国の友人ができたことも、多くの学生にとって世界とのつながりを強く感じるきっかけとなりました。そして、何よりも、国際的な共通言語としての英語の力を高めることの大切さを痛感しました。今後も学習院大学と元智大学の学生間の交流が続き、両国の価値観や文化の相互理解、友好関係がさらに発展して欲しいと思います。

(学習院大学経済学部米山ゼミ 3年 渡邊芽衣)